

# 医師の異動（4月）

## ■着任（令和3年4月1日付）

泌尿器科責任部長	村井 亮介	放射線科(診断)専攻医	石本 聡史
心臓血管外科部長	長門 久雄	歯科・口腔外科専攻医	田代 千紘
眼科部長	額田 正之	整形外科専攻医	滝口 陽介
麻酔科部長	柳田 豊伸	産婦人科嘱託医	久田 純江
麻酔科専攻医	佐々木 一真	脳神経外科(交代医)	山本 優
麻酔科専攻医	河野 匡暁	臨床研修医	井上 遥香
呼吸器内科専攻医	伊藤 高範	臨床研修医	伊原 俊之
腎臓代謝内科専攻医	杉本 陽	臨床研修医	マクラケン佳世
腎臓代謝内科専攻医	中山 秀樹	臨床研修医	桂 東吾

## ■退職（令和3年3月31日付）

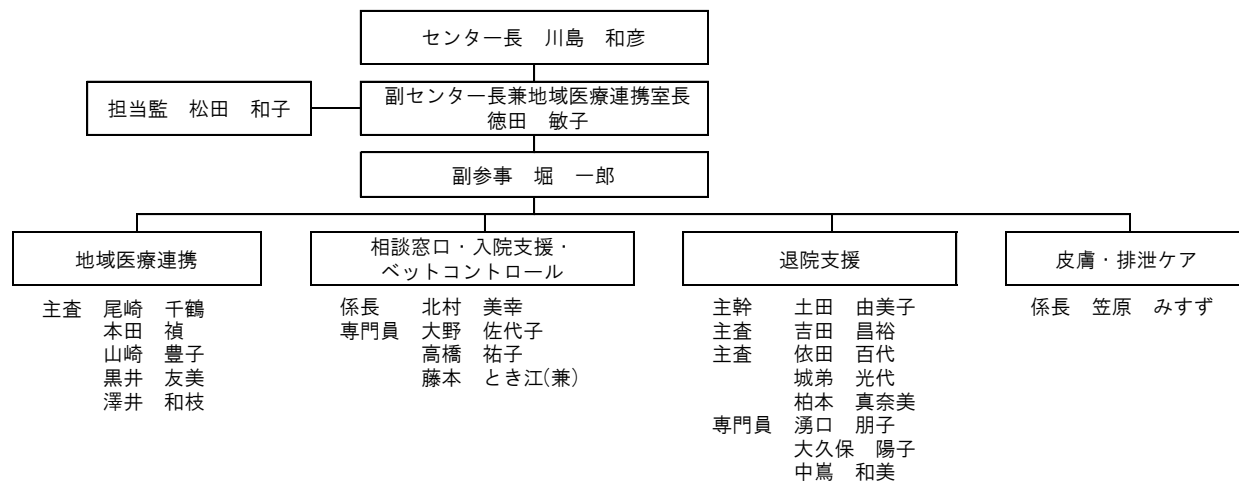
産婦人科責任部長	脇ノ上 史朗	麻酔科専攻医	吉田 亞未
循環器内科部長	福本 大介	中央検査科嘱託医	沢田 眞治
麻酔科部長	平岡 進	脳神経外科嘱託医	藤井 昌子
歯科・口腔外科部長	北本 幸恵	臨床研修医	黒川 昌悟
産婦人科医長	渡辺 智之	臨床研修医	辻本 陽二郎
腎臓代謝内科副医長	大町 将司	臨床研修医	栗山 紘和
産婦人科専攻医	加勢 諒		

※新体制での診療となります。詳細が定まっていない診療科が多くありますが、決定次第随時お伝えさせていただきます。  
 眼 科：2人体制に戻ります。院内で出来る手術も増えますのでご相談ください。  
 形成外科：診療日は、月曜日と木曜日です。院外からの受け入れは要相談となります。

# 地域医療連携室新体制のお知らせ

地域医療連携室内の担当者が変更となります。室内で協力しながら業務を行ってまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

【令和3年度患者総合支援センター 地域医療連携室 組織図】



## ■■ 編集後記 ■■

今年は例年になく早さで、桜の開花となりました。  
 桜が咲くと、何となくわくわくした気分になります。桜色は大好きなピンク系だからでしょうか。  
 春の嵐ですぐに散ってしまう花びら。タイミングを逃すこと無くタイムリーに今年度も頑張りたいと思っています。  
 Pink-Bu



# 市立長浜病院 地域医療連携だより

令和3年4月1日号 No.196

理念  
 地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、  
 地域完結型の医療を進めます。

市立長浜病院  
 患者総合支援センター 地域医療連携室  
 〒526-8580 長浜市大戌亥町 313 番地  
 TEL: 0749-65-2720  
 FAX: 0749-65-2730  
<http://www.nagahama-hp.jp/>



救急告示病院  
 日本医療機能評価機構認定病院  
 地域がん診療連携拠点病院  
 厚生労働省臨床研修指定病院  
 周産期協力病院  
 地域医療支援病院

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。4月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

## 院長就任のご挨拶

院長 高折 恭一

令和3年4月1日付で院長に就任いたしましたので、日頃から地域医療連携でお世話になっております皆様方に、自己紹介とともに、ご挨拶を申し上げます。

私は外科医で、天理よろづ相談所病院で修練を積んだのちに、大阪医科大学、京都大学、朝日大学において、それぞれ講師、准教授、教授などの役職を勤め、臨床・研究・教育に従事してきました。

専門としてきました臓器は膵臓で、京大病院では膵臓がんユニット長として、集学的治療に取り組んで参りました。

また、膵癌早期診断を目指して日本膵臓学会家族性膵癌登録制度を発足させ、全国の登録施設で膵癌家系の方々の登録を推進し、付随研究として膵癌スクリーニング検診についての検討を行っているところです。

来年には、第53回日本膵臓学会大会を主催させていただきますので、膵癌をはじめとする膵疾患の診療と研究のさらなる発展を見届けたいと思います。

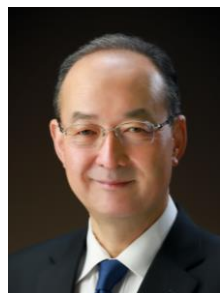
市立長浜病院では、昨年4月から副院長として勤務し、地域医療に携わってまいりました。本来であれば、地域医療連携でお世話になっている皆様のところを廻ってご挨拶したかったのですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、願いが叶いませんでした。今年こそは、皆様に直接お会いする機会を賜れば幸いです。

さて、深刻な医師不足は地域医療を直撃しており、当院でも産婦人科診療の大幅縮小などで、地域住民の皆様および近隣医療機関にご迷惑ご心配をおかけしていることを申し訳なく思っております。

一方、市立長浜病院は幅広い分野の優秀な医療スタッフに恵まれております。そのリソースを最大限に活用し、脳卒中、循環器疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、腎臓疾患、糖尿病、リウマチをはじめとして、整形外科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔外科疾患、泌尿器科疾患などで、地域医療に貢献していきたいと存じます。

また、今年には新型コロナに対するワクチン接種という新たな課題もあり、これまで以上に地域医療連携に注力していきたいと存じます。

今後ともご支援ご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



## ご挨拶

### 副院長 東出 俊一

市立長浜病院が現在地に新築移転した平成8年4月に留学先のテキサス大学より外科主任部長として着任し、初仕事として旧病院（現市庁舎）からの患者移送を担当しました。

以来長浜の住人となり25年が過ぎ、人生の中で長浜暮らしが最長となりました。

平成26年からは外科責任部長として消化管、肝胆膵、乳腺等すべての外科疾患を担当し、救急センター、外来化学療法センターの充実に携わってきました。

最近では消化管、肝胆膵領域に優秀な医師の着任を得て、乳腺診療に重点を置いています。

長浜赤十字病院の楠井院長と共に、滋賀県内で初めて乳がん検診精度管理委員会を長浜市に設置することができ、その後の県内外の乳がん検診体制に大きく影響を与えられたことは広く近畿地区に誇れることでした。

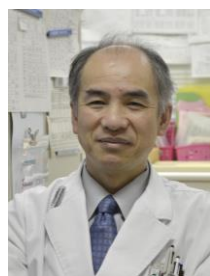
昨春秋に外科責任部長を川島医師にお願いし、副院長に就任いたしました。今年度からは臓器外科の重鎮である高折先生を院長として、新体制のもと湖北医療圏の充実に努める所存です。

Covid-19の出現で生活様式が一変し、医療体制も手探りの状態が続く状況下で、感染予防、がん検診事業の在り方、救急の在り方、医療教育の方法、原子力災害を含む災害対策、湖北医療圏の再編等、課題は山積みの感があります。Covid-19出現以前の状態とは違った形態の構築が求められており、頭を柔軟にしなければと自戒しているこの頃です。

多角的な視点からのご意見が貴重となりますので、どうか皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

各医療機関、医療関係諸氏の率直で迅速な意見交換ができる環境が、充実した医療圏のためには重要だと思えます。どしどしとご意見をお聞かせください。

今後ともご指導いただきますよう、心よりお願い申し上げます。



## 新型コロナ2年・ワクチン元年に際して

### 副院長 小室 太郎

昨年度は、新型コロナウイルス検査にまつわる業務に多くの時間を費やしました。

本年度も第4波・第5波・・・に対しての検査業務が依然として要求されることを覚悟しております。検査手法をより良きものにならながら踏ん張りますので、地域外来・検査センター（PCR検査センター）への検査依頼はどうぞ遠慮なくお申し込み下さい。

本年度は市民への新型コロナウイルスワクチン接種が新たな業務として追加されます。現時点で延べ約30,000回分の接種が予定されておりますが、救急を含む通常診療・COVID-19診療を維持しながらこれをやり遂げる予定をしております。

更に、私共の本来の業務である救急・外来・入院診療については、眼科・呼吸器科・心臓血管外科・泌尿器科・麻酔科で増員または体制が回復します。

コロナ禍にあっても通常診療の体制強化が図れておりますので、どうぞ安心してご紹介をいただきますようお願い申し上げます。

加えまして、回復期リハビリテーション入院・レスパイト入院（※）・脳卒中後の維持リハビリテーション入院・自動車運転に関わる適性の評価なども平年並みに対応しておりますので、こちらも是非ご相談いただけましたら幸いです。



※新型コロナウイルス感染症対策のため、現在一時休止中です。

## リハビリテーション技術科のご紹介

### リハビリテーション技術科 技師長 北村 淳

令和3年4月付で、リハビリテーション技術科技師長に就任しました北村と申します。

当科はPT26名、OT12名、ST5名の構成で、ICU、SCUの超急性期から、急性期、回復期、療養病棟、そして訪問リハビリやメンテナンスリハビリまで地域へと繋ぐ関わりを持っています。

疾患別では、脳血管疾患、運動器、心大血管疾患、呼吸器、がん、廃用症候群等、すべての疾患別リハビリを提供しています。回診やカンファレンスに積極的に参加し、多職種との情報共有や連携を密に取るよう努力しています。また回復期リハビリ病棟での365日リハビリ提供体制以外に、急性期病棟でも休日リハビリを提供しています。

新型コロナウイルス感染対策を十分行いながら、患者サービスの向上に努めてまいります。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



### 理学療法部門のご紹介

#### リハビリテーション技術科 参事 理学療法士 三浦 富子

理学療法の対象患者さんは主に、脳卒中や骨折などで運動機能障害を来した方で、運動療法や物理療法等を施行し、機能回復や日常生活動作の獲得を目指しています。

近年は、HONDA 歩行アシストやウオークエイド等の新しい機器も導入しサービス向上に努めています。また、心疾患の患者さんを対象とした、心臓リハビリテーションを、入院の急性期から外来の維持期まで一貫した理学療法を行っており、機能回復に加え、再発予防や生命予後の改善に貢献しています。

急性期、回復期、維持期に理学療法士が配属しており、分断のない理学療法が可能になっています。さらに、各セラピストが、疾患別に専門分野を持ちながら、ある時はオールマイティに患者中心の医療を担うべく精進しています。



### 作業療法部門のご紹介

#### リハビリテーション技術科 技師次長 作業療法士 杉江 加代子

作業療法では、「その人らしい生活の獲得」を目標としてリハビリを行います。急性期の段階から、将来の生活を見越して、心と身体の機能回復訓練や、その人が必要な生活動作の練習をすすめています。また、回復期には、その人なりの生活の方法と一緒に考え、福祉用具の導入や必要な動作の習得のための練習を行ったり、住み慣れた環境で趣味や生きがいをもって生活することを支援しています。

近年は、多職種とチームを組み、自動車運転適性評価や、認知症の方を対象とした院内デイなどの活動にも取り組んでいます。令和2年9月からは、作業療法士の訪問リハビリも始まり、実際の生活環境での動作練習や環境調整支援など、地域にも活動の場を広げています。



### 言語聴覚療法部門のご紹介

#### リハビリテーション技術科 主幹 言語聴覚士 田邊 信彦

言語聴覚士は、嚥下障害、構音障害、高次脳機能障害、失語症といった症状についてリハビリを行っています。これらの症状を呈した患者さまに対し、退院後に自分らしく生活できるように、寄り添いながら、一緒に考え、機能向上と障がいへの受け入れを進めていけるよう努めています。高次脳機能障害や失語症を呈した患者さまに対して、多職種で協同し、経頭蓋直流電気刺激によるリハビリ、自動車運転適性評価なども行っております。

嚥下障害を呈した患者さまに対しては、多職種からなる嚥下委員会の一員として、嚥下回診、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査、嚥下訓練、退院後の食事方法の指導などで関わっています。

